

常照

第825号

お香典とお布施

お通夜、お葬式にお参りする時に持参するのがお香典（香奠とも書きます）です。お金を包んだものですが、これは「このお金でお香を供えてください」という心が込められています。お葬式に持参する時は、銀の水引、あるいはその略式の黒、紺、紫、濃緑の水引の包みを使います。

また、法事に招かれた時に持参する際には黄色の水引のものを使

います。

水引の色は、お祝いの時は金銀またはその略式の紅白を使います。黄色の水引は慶事でも弔事でもない時、つまり法事等に使うものです。

お葬式に持参するお香典の表書きを薄墨にするのは、取るものもとりあえず大急ぎでお参りに来たので、墨を擦る時間もなかった、ということを表すためのものです。また、中に入れるお札も新しいものには使わない、といわれることも同じ意味があります。しかし、法事に招かれた時は、前もって案内をいただいていて準備をする時間が充分あるので、表書きは濃い墨で、中のお札も新しいもので問題ありません。

大切な方を亡くされたご家族や

よりは食べ物であつたり衣服であつたりしたものです。それが現代では一番便利で融通のきくお金になつたという訳です。

つまりお布施はお坊さんに差し上げるものです。先程のお香典はご遺族の方に差し上げるものですから、意味も性格も全く違うものです。

しかし、包む時の水引はお香典と共通です。お葬式から初七日、四十九日まで（これを中陰（ちゅういん）と言います）は銀、またはその略式を、その後は黄色の水引を使います。もし迷つた時は水引のない無地のものが無難です。

また名前の書き方は、紙包の中心線の上半分に「御香典」もしくは「御布施」と書き、同じ中心線の下半分にお名前を、できれば

フルネームで書きましよう。よく「〇〇家」と書いてあるのを見かけますが、お香典もお布施も包むのは人間で家ではありません。

そして包む紙も、和紙でできた封筒か半紙を使いましよう。ティッシュやちり紙は、その用途を考えるとどうもふさわしくないと思いません。また裏面の下方に金額を小さく書くのは相手に対する心遣いでしよう。また糊付けしたところに「~~〆~~」は手紙と違うので不要だということですが。

以上細々と説明してきましたが、確かに面倒くさいといえはその通りです。しかし、私達の生活の中にある形式には、大なり小なりそれぞれの意味があるのです。それが私達の生活、そして文化を形づくっているのです。

豆 知 識

〈お香典とお布施の水引の色〉

お葬式 銀・黒・紺・紫・濃緑

ご法事 黄色

お祝い 金銀・紅白

常照8月号についてのお詫び

先月号(第824号)の常照「若坊守の往生に想う」につきまして、読者の方々のお手次御自坊の事と誤解を与えてしまいました。市内御寺院の住職より寄稿頂いた文章をそのまま掲載しましたものです。ここにお詫び申しあげます。

合 掌

十月の常例布教(ご法話)のご案内

《宗祖親鸞聖人報恩講》

○期 日 十月十三日(木) 遠夜

十六日(日) 満日中まで

○報恩講布教

東京教区 中組 法重寺

講師 南條 了瑛 師

※現在、コロナ禍における状況を鑑み日程等の協議中です。詳しくは別に配布のご案内をご確認いただくか、お手数ですがお寺までお問い合わせください。

○場 所 小樽別院本堂

◎なお、報恩講修行に伴い期間中は月忌参詣をお休みさせていただきます。感染症対策の上、どうぞ報恩講にお参りください。

発行所

☎047-0017

小樽市若松一丁目四番十七号
本願寺小樽別院

電話 (0134) 221074
FAX (0134) 221080
テレホン法話 227161